

20010/25

平成13年度厚生科学研究費補助金
(統計情報高度利用総合研究事業)

都道府県における厚生統計調査の
利便性に資する
データベースの在り方に関する研究

平成13年度 総括研究報告書

平成14年3月

主任研究者 藤本 眞一
(県立広島女子大学生生活科学部)

厚生科学研究費補助金研究報告書目次

総括研究報告書

・ 本文	1
・ 資料 1 電算化入力フォーム使用状況報告	4
・ 資料 2 医療施設情報システム操作マニュアル	9
付録 1 入力仕様	39
付録 2 帳表サンプル	59

厚生科学研究費補助金（統計情報高度利用総合研究事業）

総括研究報告書

都道府県における厚生統計調査の利便性に資する

データベースの在り方に関する研究

主任研究者 藤本 眞一 県立広島女子大学生生活科学部

〔研究要旨〕

都道府県における厚生統計のうち、「病院報告」と「医療施設動態調査」に着目し、それぞれの現場における入力により、国に統計報告を行うための支援システムを開発することを目的として、「医療施設動態調査」及び「病院報告」の電算化入力フォームを製作し、衛生行政の現場での試験的入力を実施した。その結果、今回試作したシステムはエラーチェックが可能であるということからも、比較的使い易いシステムである一方、Access2000で作成したシステムであったため、Accessそのものをインストールする等の不具合が生じた。したがって、Excelで使えるようにする等、システムの改善の余地があることが指摘された。またシステム普及に当たっては、システム使用上の疑問点が発生した場合のトラブルシューティングを詳細に記述するなどの工夫が必要であることが指摘された。なお今後、このシステムを全国的に運用することにより、保健医療行政の運用に活用できる可能性は十分あると考える。

研究協力者：山本 光昭

（茨城県保健福祉部）

桐生 康生

（山梨県峡北地域振興局

健康福祉部）

三浦 公嗣

（広島県福祉保健部）

平田 輝昭

（福岡県保健福祉部）

川内 敦文

（福岡県八女保健所）

一瀬 篤

（福岡県久留米保健所）

A 研究目的

厚生統計調査の情報は、医療施設等で発生し、保健所などの支所、都道府県を経由して国に報告されている。この過程において調査票等の運搬に要する時間は多大なものであり、統計情報の解析・公表までの期間の短縮を困難にしている。よって、厚生統計に関わる情報をできるだけ発生源に近いところで電子化し、オンラインなどの形で迅速に国に集約するシステムの構築を目指すため、本研究では、地方公共団体における入力により国に統計報告を行うための支援システムを開発することを目的とする。

B 研究方法

「医療施設動態調査」及び「病院報告」の電算化入力フォームを製作し、そのシステム・プログラムを MO により各研究協力者に配布し、衛生行政の現場での試験的入力を実施する。その後試験的入力の問題点等の検討を行い、電算化入力フォーム・プログラムの製作を行う。都道府県による他の保健医療情報との提携運用を行い、運用の検討及び運用上の課題を整理し、総括する。

倫理面への配慮としては、都道府県の収集した情報を扱うため、データを試用するには、当該県の同意を得て研究を推進するのはもちろんのこと、守秘義務を遵守する。

C 研究結果及び考察

作成した「医療施設動態調査」及び「病院報告」の電算化入力フォームを次に示す。なおシステムプログラムのマニュアルは、資料 2 に示す。

1) 医療施設情報メニュー

メインメニューとなっており、ここでは「医療施設動態調査」、「医療施設情報基本表」、「病院報告」、「印刷」の項目が挙げられており、「データ保守メニュー」へのリンクが貼られている。

2) 医療施設動態調査

施設名及び所在地の記入、開設者、診療科目、許可病床数、従事者数、社会保険診療等の状況に関しては「1:ある」か「2:なし」となっている。

3) 医療施設情報基本表

病院表、一般診療所、歯科診療所表各々の入力

を行う。この処理では動態表を作成せずに直接医療情報を更新する。

4) 病院報告

「共通表」、「患者表」、「従事者表」各々を入力する。「共通表」では開設許可、開設、病床変更許可、休止、再開、廃止等の年月日を入力する。「患者表」では在院患者延数、月末在院患者数、新入院患者数、退院患者数、月末病床数等を入力する。「従事者表」では、医師数、歯科医師、薬剤師、看護師等の人数を入力する。

5) システムの試験的運用結果

作成した電算化入力システムを、各研究協力者が運用した状況報告を資料 1 に示す。全体として毎月の医療動態調査、医療施設基本ファイル、病院報告、病院報告台帳の審査や管理の一元化が図られ、煩雑な審査業務の事務量の削減、大量の紙媒体の電子化、入力ミスの減少が得られるメリットがあった。しかしシステム自体が Access2000 であったため、バージョンアップが必要となったり、Access のソフトそのものをインストールしなければならない、というデメリットもあった。したがって、保健所等で繁用されている Excel を用いてシステムを作成することを考慮する必要がある。

D 評価

1) 達成度について

厚生統計に関わる情報をできるだけ発生源に近いところで電子化する、ということは可能となった。しかしシステムが Access であったための

不具合が生じたことから、Excelでの作成、トラブルシューティング等の詳細を追加すべきである。

2) 研究成果の学術的・社会的意義について

都道府県における厚生統計調査の情報を適切かつ迅速に支援できるデータベースを構築することにより、都道府県が保健医療情報を必要に応じてオンラインで利用し、保健医療行政の運用に活用する。

3) 今後の展望について

今回製作したこのシステムを改善し、実際に現場で運用していくことを目指す必要がある。特に保健所や医療機関における実際の入力を試行し、実践的に活用できるシステム構築に繋げていくことが肝要である。

E 結論

厚生統計に関わる情報をできるだけ発生源に近いところで電子化することにより統計情報の解析・公表までの期間を短縮することを目的に、電算化入力システムを製作し、試験的運用を行った。その結果、以下のことが明らかになった。

1) 今回試作したシステムはエラーチェックが可能であるということからも、比較的使い易いシステムであると考える。

2) Access2000で作成したシステムであったため、Accessそのものをインストールする等の不具合が生じた。したがって、より一般的に普及していると思われるExcelなどで使用できるようにする等、システムの改善の余地がある。

3) システム普及に当たっては、システム使用上の疑問点が発生した場合のトラブルシューティングを詳細に記述するなどの工夫が必要である。

4) 今後、このシステムを全国的に運用することにより、保健医療行政の運用に活用できる可能性は十分あると考える。

F 研究発表

なし

G 知的所有権の出願・取得状況

なし

資料1 電算化入力フォーム使用状況報告

○ 山本 光昭 研究協力者

電算入力システムを試験運用した結果、毎月の医療施設動態調査・医療施設基本ファイル・病院報告・病院報告台帳の審査や管理の一元化が図られることにより、煩雑な審査業務の事務量の削減、過去のデータの検索、大量の紙媒体の電子化、記入ミスへの減少などのメリットがあった。なお、以下の改良が必要と思われた。

1. 医療施設動態調査票

市町村コードを入力することにより、連動して住所欄に市町村名を表示するようにする。

2. 医療施設基本ファイル

医療施設の現況を知る上での機能は有しているが、例えば小児科を標榜している医療機関が過去5年間でどれくらい開始・廃止したのか、検索できるような設定がほしい。さらに、データの活用を図るため、施設数、病床数を検索できる機能を追加する。

3. 病院報告

医療施設基本ファイルに登録されている病床数と病院報告で入力した月末病床数との間にエラーチェック機能が設定されているが、在院患者延数についても同様の機能が設定されれば、エラー入力はなくなる。また、病院報告及び病院報告台帳の印刷で、0が表示されないため未入力なのか0なのか、区別ができない。月末病少数が記入されている欄には0を記入できるように設定する。

○ 桐生 康生 研究協力者

医療施設情報システムを約10日間試用を試みたが、残念ながらデータ入力に至らなかった。以下に試用を試みての感想を述べる。

1. システムの機能要件等

この種のシステムは、システムの作りこみを行なうことによって使い勝手の低下を招くことが多いので、総合メニューによる作業選択などの作りこみを行なうべきではないと考える。単純な入力用ファイルを用いるほうが望ましい。また、保健所の実情を考えると、MS Accessに習熟した職員は少なく、MS Excelファイルの方が望ましい。また、用いるバージョンをやや古くするかランタイムアプリケーション（File Makerなど）による方が経済的な負担を軽減できる。

将来の利用を考えた場合、システムに必要な機能は、XML(eXtensible Markup Language)形式によるファイル（またはデータ）出力機能である。そして、行政的に利用する場合には、使用するタグ名とデータ型を標準化することが重要である。タグ名には、「電子保存された診療録情報の交換のためのデータ項目セット（医療情報システム開発センター、2000）」の考え方に基づいたタグ名を用いるべきである。

2. 試用上のトラブル

以下に本システムの試用を試みて遭遇したトラブルを列記する。

・本システムが、どのようなデータを扱うシステムかわからなかった。システムを起動して始めて、「人口動態調査」と「病院報告」を扱うことがわかった。

- ・当保健所にはMOドライブがなく、MOメディアが読めなかった。
- ・当保健所のコンピュータは、セキュリティ対策上アプリケーションの追加が禁止されていること、MS Accessのバージョンは97であることから使用できなかった。
- ・インストール方法が操作マニュアルになく、インストールに手間取った。
- ・MOドライブから外付けハードディスクにインストールし、別のコンピュータで使用しようとしたがシステムが起動しなかった。
- ・システムの起動方法がわからなかった。操作マニュアルには、「デスクトップの『医療施設情報システム』のアイコンをダブルクリック」とあるが、アイコンはなかった。
- ・起動時の総合メニューから抜け出し、データファイルを直接操作する方法が見つからなかった。
- ・各データ項目（フィールド）のフィールド名、データ型などの情報が操作マニュアルに欠けていた。
- ・システムを起動すると、「データを再リンクしてください」とのメッセージが出たが、再リンクの方法がわからなかった。
- ・初期の総合メニューから「動態調査票入力」を選び、新規入力を試みたが、「指定したレコードに移動できません」とのメッセージが表示され、データ入力できなかった。
- ・初期の総合メニューから、「病院報告入力」を選び、新規入力を試みたが、「整理番号」について「指定した項目はリストにありません」とのメッセージが表示され、データ入力できなかった。

3. システムの改善点等

前述のように、システムの作りこみは行なうべきではないと考えるが、本システムを改善するとすれば、以下のことが必要である。

(1) 操作マニュアルの改善

- ・システムの概要の記述（「人口動態調査」と「病院報告」を入力するためのシステムであることなど）
- ・インストール方法の説明
- ・起動方法の説明（間違いがないか再検討）
- ・各種エラーメッセージへの対応方法などのトラブルシューティング、Q & Aなどの整備
- ・ファイル名、テーブル名、フィールド名、データ型、リレーション等のシステム構成の記述

(2) ユーザーインターフェースの改善

業務分析を行ない、ユースケース、シナリオに基づいた業務フローや情報の流れを把握し、それに基づいたシステム構築が望まれる。

○ 三浦 公嗣 研究協力者

- ・システムとしては、完成していると考えられる。
- ・様々な機能が搭載されているので、本庁での当面の処理には問題なく対応できるものと考えられる。
- ・一方、保健所において、データベースの活用を容易に行いすることが重要であるが、この機能については、今後、評価が必要になる。

・また、本庁と保健所間でのデータ転送を含めた、システム全体での安全性について、さらに評価を続ける必要がある。

・さらに、調査内容の変更等が行われることが考えられるが、その都度システムの変更を行い、本庁と保健所に設置されているソフトの変更を行うことを容易にする必要がある。そのために、本庁にデータベースを置き、端末からはブラウザを用いてデータ入力と出力ができるシステムの有用性も高いと考えられる。

○ 平田 輝昭 研究協力者

第1回の班会議の席でも発言したことですが、システムの目的が何なのか、そのメリットはどこにあるのかを、もう少し追求しないとせっかく作ってもあまり利用されないのではないかという気がします。

第1回班会議で、厚生労働省の入力作業、ミスチェック等の減量化につながるという話は聞きましたが、県庁レベル、保健所レベルでどのような意味があるのか、逆にどのような労働軽減あるいは負荷につながるのか分かりづらいのが実状です。

研究としては、「先進県に利用してもらえばよい。」ということかもしれませんが、後進県も喜んで利用できるようなものにしていく努力が必要な気がします。

そのためには、県レベル、保健所レベルでの付加価値を高めることが必要でしょう。

まず、医療施設動態調査入力については、保健所での利用価値はあるように思います。手で記載する内容を電子情報で入力するだけで美しい報告用紙が印刷できますし、修正も容易ですから、ワープロ感覚で利用していただければと思います。実際に独自のシステムを作り活用している保健所もあります。喜ばれるシステムだと思います。

また、毎年医療機関台帳を作成している県であれば、たぶん今回のシステムはありがたいものになるのではないかと思います。すなわち、新たに台帳の整理を行う必要がないからです。ただ、そのためには全医療機関について入力されている必要がありますのでその作業が必要となります。

もっとも、厚生労働省で入力されている医療機関施設名簿をダウンロードすれば可能なのですから、それを前提とすればあまりありがたいものでもないかもしれませんが。

次に病院報告については、患者票、従事者票とも現場では歓迎されないように思います。病院から出てくる患者票、従事者票をそのまま保健所→県庁→厚生労働省で良かったのですから、これは明らかに負荷が増します。患者票については毎月の作業ですから、病院数の多い保健所、県庁ではかなりの作業になるのではないのでしょうか。

社会保険等との関係で、平均在院日数の計算や病床利用率の計算に利用されるということになれば数字の重み、情報蓄積の重みも変わるでしょう。何か付加価値が必要です。

病院については医療監視結果（厚生労働省のプログラム）に従事者数が毎年入力されており、時点の違いはあるにせよ同じ保健所内で同種のデータを2個保管しておく意味はないように思います。

医療監視の際、医療施設動態調査票で変更を報告すべき事項が明らかとなることもあります。医療監視結果も Access で作成されたシステムですから少々の改修でこのシステムとデータのやりとりが可能になるのではないかと考えます。

作成されたシステムの作動について、医療施設動向調査入力システムの処分元号入力に

トラブルがあり進むことが出来ず、操作上の評価がほとんど出来なかったことお断りしておきます。そのなかで気づいたこととしては、医療施設動態調査票の入力について、解説者、住所のカタカナ入力と漢字入力は連結しておいた方が良いのではないのでしょうか。

標榜科目で当初「2」が表示されますが、無表示には出来ないのでしょうか。

○ 川内 敦文 研究協力者

1. レイアウト

表紙レイアウトをはじめ、各メニューのレイアウトについても比較的に見やすく、特に指摘すべき点はない。ただ、背景はもう少し明るい色調の方が入力の際に疲労が少ないように感じられた。

2. 操作環境

TAB キー、ENTER キーのいずれでも入力更新が可能で、入力メニューも様式に沿っているため、円滑に入力可能であった。施設の種別や施設名の検索、「ある・なし」の選択は上下キーを使用できるとより円滑な入力が可能となると思われる。また、診療所は極めて多数にのぼることから、検索モードに市町村名を加えてもよいのでは、と考える。

3. 個別メニュー

(1) 動態調査表の登録

動態調査表の保存の際にエラーが発生した（「実行時エラー2046」及び「元号の入力に誤りがあります。」）が、動態調査表の印刷は可能であった。しかし、注の部分が2枚目にわたり、調整が必要と思われる。また、保健所名を確定後は市町村名選択の際に当該保健所の管轄市町村のみが表示されるようにすれば入力ミスはなくなると考える（保健所管轄の変更は今後もあり得るが、市町村合併によるバージョンアップが必要になるため、いずれにしろ必要になると思われる）。

(2) 基本ファイル保守

特に不具合は発生しなかったが、医療機関検索の際に市町村名を加えるとより迅速に処理が可能となると思われる。

(3) 病院報告入力

全ての種別において患者票の保存の際にエラー（実行時エラー2046）が発生し、保存できなかった。共通と従事者票については不具合は発生しなかった。

(4) 印刷

前段のエラーのため患者票の印刷はできなかったが、他のメニューの印刷は全て可能であった。ただ、医療施設基本ファイル表はA4で印刷すると右方がはみ出る結果となった。

(5) 報告

「ドライブまたはディレクトリが存在しません」というエラーが表示され、受け取り・受け渡しとも実行できなかった。

(6) その他

いずれも印刷は可能であったが、動態調査表の住所欄に市名を記載していなかったので印字されなかった。住所入力の前段階で市町村名を選択しているのに、住所入力の際に市町村名を入力しなくとも市町村名が印字されるように設定されることを望む。

○ 一瀬 篤 研究協力者

- ・ 11.3 インチのモニターを使用したか、画面全体を表示できず、縦スクロール及び横スクロールの両方を使用するため、使い勝手が悪かった。
- ・ 入力画面は調査票と同じ様式（もしくは類似の様式）が望ましい。
- ・ 入力して電算化し取りまとめる国にとってはメリットがあるかもしれないが、都道府県、特に保健所にとっては入力の手間が増えるだけでメリットが無いのではないか。
- ・ 台帳の更新履歴は印刷することができるのか。
- ・ 台帳を自在に編集・印刷できないのか。
- ・ 文字に影がついていて、読みにくい。
- ・ もっと詳しいマニュアルが欲しい。
- ・ 入力エラー時の対応が分からない。（「元号の入力に誤りがあります。」等）
- ・ Microsoft Visual Basic が表示されるが対応が分からない。
- ・ バックが表示されるが対応が分からない。
- ・ 入力時にエラーチェックができることは便利。
- ・ 過去に遡って訂正する必要がある場合、対応できるのか。
- ・ Microsoft Access 2000 で医療施設情報システムを開発しても、プログラムソフトをバージョンアップする予算を持っている都道府県、医療機関は少ないであろうし、対応できないことが多いのではないか。末端までの配布を考えているのであれば、もっと低いバージョンで作成すべき。また、コンピュータに Access が入っていない可能性も考えると、もっと互換性の高い形式（html 形式？）で作成はできないのか。

医療施設情報システム 操作マニュアル

平成 1 4 年 3 月

平成 1 3 年度厚生科学研究費補助金（統計情報高度利用総合事業）
「都道府県における厚生統計調査の利便性に関する
データベースの在り方に関する研究」班

主任研究者 藤本 真一
（県立広島女子大学生活科学部）

～ 操作マニュアル目次 ～

はじめに	11 (1)
起動画面	13 (3)
医療施設情報メニュー（メインメニュー）	14 (4)
医療施設動態調査票の入力	15 (5)
医療施設情報基本ファイルの変更	19 (9)
病院報告の入力	21 (11)
病院報告入力（共通表）	
病院報告入力（患者票）	
病院報告入力（従事者票）	
各種帳票の印刷	27 (17)
帳票の印刷について	
印刷イメージ画面の操作	
動態調査票の印刷＜保存後＞の指定条件	
医療施設基本ファイル表の印刷の指定条件	
病院報告（患者票）の印刷の指定条件	
病院報告（従事者票）の印刷の指定条件	
病院報告台帳の印刷の指定条件	
保健所からデータを受け取る	34 (24)
本庁へデータを送る	35 (25)
宛名ラベルの印刷	36 (26)
データ入力状況表の印刷	37 (27)
データ保守メニュー	38 (28)
データの保存と読み込み	39 (29)
システム設定	40 (30)
付録① 入力仕様	41
付録② 出力仕様	59

● はじめに

【はじめに】

医療施設情報システムは、Windows98 (Me)で動作する、Microsoft Access2000 のデータベースの形式で作成されています。

本システムを起動すると、Access2000 を起動してから医療施設情報システムのデータベースが開かれます。


本システムのデータベースの操作や機能などは、Access2000 と基本的に同じです。この操作説明書の他に、Access2000 のマニュアルや関連書籍も併せてご覧下さい。

【Access2000 の操作】

(1) 画面(ウインドウ)の操作

Access2000 を含む Windows98 (Me)のプログラムでは、複数の画面 (ウインドウ)といえます。このマニュアルの中では画面という表記で統一しています。() を同時に表示する事が出来ます。

通常、一番手前に表示されている画面が現在操作や入力出来る画面になります。操作する画面を切り替えるには、切り替えたい画面内のどこか一部分をクリックすると切り替わります。

画面の右上角にある、 ボタンは閉じるボタンといえます。ここをクリックすると画面が閉じられ、その処理が終了します。 Access2000 の閉じるボタンをクリックすると Access2000 が終了して Windows98 (Me)の画面に戻ります。



(2) 入力画面の形式

データを入力する画面には、法人名簿のような単票形式と、複数の行を同時に表示する一覧形式があります。

どちらでも入力の要領は同じです。画面を閉じた時、別の行へカーソルを移した時などに自動的に入力した内容を保存します。

(3) 画面に値を入力する

画面内で、白色のくぼんだ表示の欄に値を入力する事が出来ます。入力する欄にカーソルを合わせ値を入力します。 [Enter(リターン)], [→], [↓] 又は [Tab] キーを押すと、カーソルが次の項目に移動します。前の項目に移動する場合は [←], [↑], 又は [Shift]+[Tab] キーを押します。或いは、マウスカーソルを項目に合わせてクリックするとそこにカーソルが移動します。

項目の右に、 ボタンが付いている項目では、 をクリックすると、一覧が表示されます。入力する値を一覧の中から選択し、クリック又は [Enter] キーを押すとその値が項目に入力されます。一覧を使用せず直接入力する事も出来ます。項目によっては、一覧の中には入力出来ない場合があります。

項目には、定型入力の設定されているものがあります。定型入力とは、数字で6桁など、決まった文字の種類、桁数でしか入力出来ないようにする機能です。定型入力に合わない文字は入力できません。また、桁数が足りない場合はエラーメッセージが表示されます。

定型入力の代表例では、日付の入力があります。日付は "H13/03/31" のように表示されますが、入力する時は "h130331" と打ち込みます。つまり、年月日の元号と数字のみを続けて入力します。月や日が1桁の時は "0" を必ず付けます。区切り文字の "/" は入力時に自動的に挿入されます。また、日付として正しくないもの (13月とか32日など) は入力できません。

文の途中で改行する場合は、文を入力中に [Ctrl] を押しながら [Enter] キーを押すとそこで改行をします。帳表に印刷する時も同じ場所で行して印刷します。

● はじめに

【Access2000 の操作】

(4) 入力のカンセル

Access では入力行が変わった時や画面上部や下部に配置しているボタンをクリックした時に自動的にデータを保存します。データの入力中に [Esc] キーを押すと入力中項目の内容がキャンセルされ、もう一度 [Esc] キーを押すとその行全部の変更が元の内容に戻ります。したがって、基本的には入力しているその行の変更までは戻せませんが、自動的に保存されていて戻せない場合があります。また、削除した行は元に戻りません。

(5) 入力画面での行の移動

データを入力する画面では、画面下部に行操作を行う「移動ボタン」があります。これを使うと素早く新規追加行に移動する事などが出来ます。



① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦

- ① 最初 (1 行目) の行へ
- ② 前の行へ
- ③ 行番号を入力して移動します
- ④ 次の行へ
- ⑤ 全体の行数を表示しています
- ⑥ 新規追加行 (空の行) へ
- ⑦ 最後の行へ

【起動の方法】

① パソコンの電源を入れ、Windows98 (Me) を起動します。

※パソコンの起動方法や、Windows98 (Me) の操作については、それぞれのパソコンの説明書を参照して下さい。

② デスクトップの「医療施設情報システム」のアイコンをダブルクリックします。 Access2000 が起動され、医療施設情報システムのメインメニュー画面が表示されます。

【終了の方法】

① 各画面の [終了] または [キャンセル] ボタンをクリックします。医療施設情報メニュー画面で [ACCESS 終了] ボタンをクリックするとメニューが閉じられ Access2000 が終了し、Windows98 (Me) の画面に戻ります。

※画面に [終了] ボタンが無い場合は、閉じるボタンをクリックして下さい。

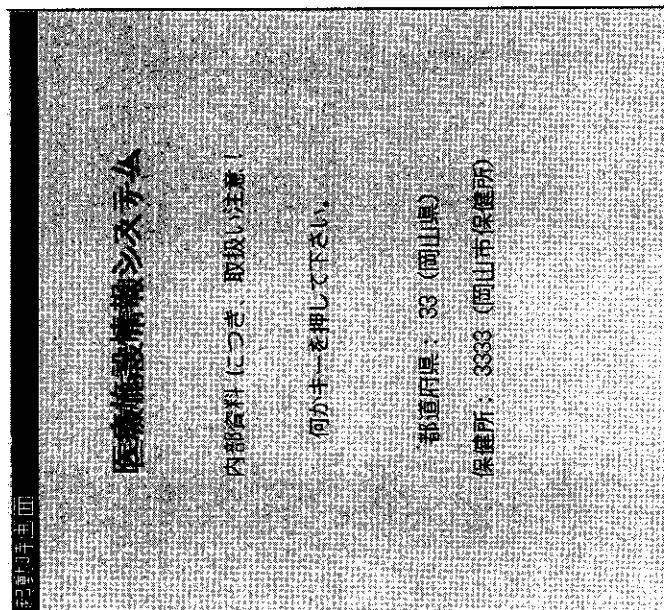
パソコンの電源を落とす場合は、Windows98 (Me) の終了手順に従って、[スタート] をクリック→[Windows の終了] をクリック→[コンピュータの電源を切れる状態にする] を選択して [はい] をクリックと操作して Windows98 (Me) を終了して電源を落として下さい。

(注) ボタンで画面を閉じた場合、Access2000 は終了しません。そのまま Access2000 を使用する事が出来ます。この状態で Access2000 を終了する場合は、メニューバーから [ファイル(F)] → [終了(X)] を選んで下さい。

● 起動画面

【医療施設情報システムを起動したら】

医療施設情報システムを起動すると最初に左の画面が開きます。
この画面は、キーボード上の任意のキーを押すか、マウスの左ボタンをクリックすると閉じて、医療施設情報システムのメニューが開きます。
※一部のキー(COPY、CTRL、SHIFT、F1～VF5キーなど)では押しても画面は閉じません。



- ・この画面は内部資料であることを明示する画面です。
- ・都道府県符号と都道府県名が表示されます。
- ・保健所符号と名称が表示されます。
本庁の場合、保健所符号は" **00" になっています。

～起動画面～

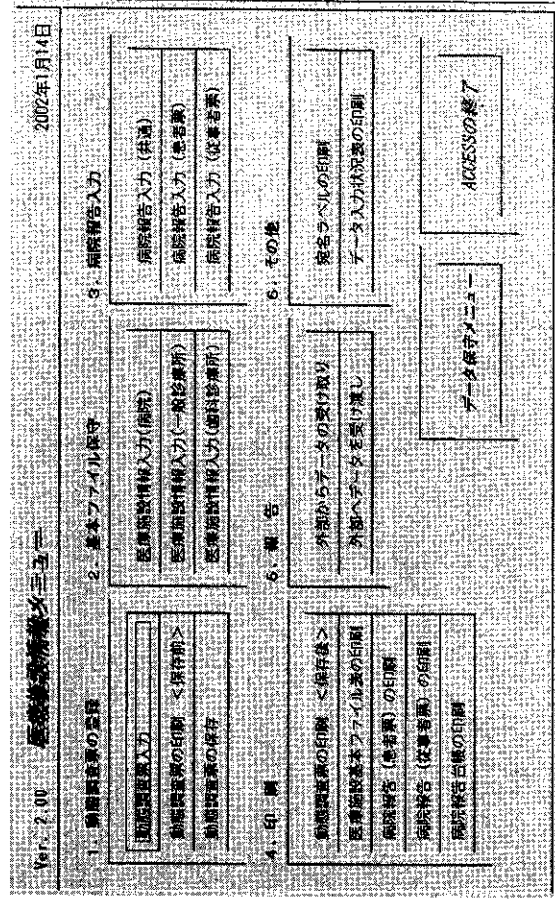
● 医療施設情報メニュー（メインメニュー）

【医療施設情報メニュー】

前ページの画面から何かキーを押すと、このメニューが表示されます。このメニューが医療施設情報システムのデータ入力や帳票印刷のメインメニューになります。
メニューの中の項目を、↑ボタンで選択しリターンキーを押すか、ボタンをマウスでクリックすると、それぞれの処理が実行されます。

【メニューの説明】

1. 動態調査票の登録
医療施設動態調査票を画面から入力し、印刷します。
保存処理で動態調査票の内容に従い基本ファイル等を更新します。
2. 基本ファイル保守
医療施設の基本ファイルの参照や修正をします。
3. 病院報告入力
病院報告（患者票・従事者票）の入力をします。
共通表は病院報告台帳の開設日等の入力をします。
4. 印刷
各帳票を印刷します。
5. 報告
保健所から都道府県庁へ、医療施設動態調査票・病院報告（患者票・従事者票）の内容を報告する為、ファイルに出力します。
6. その他
データ入力状況表で病院報告（患者票・従事者票）が提出されていない医療機関を印刷します。
7. データ保守メニュー
データ保守メニューを表示します。
システム設定やデータバックアップ等のメニューです。
8. ACCESSの終了
医療施設情報システムを終了してWindows98(Me)の画面に戻ります。



● 医療施設動態調査票の入力

【動態調査票入力】

医療施設動態調査票を入力します。入力した後[動態調査票の保存]を行い、医療施設基本ファイルへ入力した内容を反映させます。

- (1) 医療施設情報メニューから「1. 動態調査票登録」の中の[動態調査票の入力]ボタンをクリックすると、下の画面が表示されます。
- (2) 処理区分、処分等、処分等が変更の場合、変更内容を入力し、[入力]ボタンをクリックします。
- (3) 次ページの画面が表示されます。処分等の内容により画面の入力可能な項目は変化します。入力の必要がない項目にはカーソルを移動できません。
- (4) 必要項目を入力します。画面右下の小さい枠のところを改行キーを押すか、あるいは、[登録] (または [更新] [削除]) ボタンをクリックすると動態調査票が1件作成されます。
- (5) 上の(1)～(4)の要領で、1票ずつ入力します。

【項目説明】

[処理区分] をクリックすると処理の一覧が表示されます。新規、修正、削除、照会の中から選択して下さい。

新規：新しく動態調査票を作成します。

修正：既に入力した保存前の動態調査票の内容を修正します。

削除：既に入力した保存前の動態調査票を取り消します。

照会：既に入力した保存前の動態調査票の内容を確認します。

[種別] 医療施設の種別を選択します。

[処分等] 新規開設、休止…などの処分を選択します。

[変更項目] [処分等]で6:変更が選ばれた場合に、変更する項目は左のボックスをクリックしてチェックマークを着けます。(最大5個まで)

[入力] ボタン 処理区分が新規以外は[検索] ボタンとなります。このボ

タンをクリックすると上の項目に設定された条件に該当するデータの

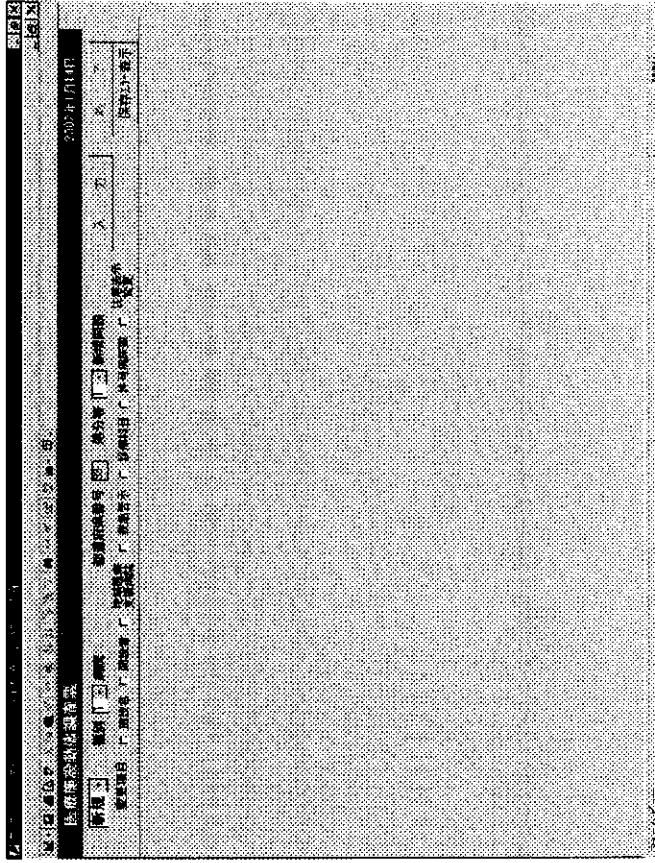
力画面が表示されます。

[終了] ボタン 入力を取りやめ、医療施設情報メニューへ戻ります。

[保存] ボタン 表示] ボタン 「動態調査票の保存」処理を実行した後、内容にウ

があった時、画面にメッセージが表示されますが、その情報をここでもう

一度確認できます。



● 医療施設動態調査票の入力

【動態調査票入力】

医療施設動態調査票の内容を入力する画面です。

背景が白色の項目が入力可能な項目です。値を入力するか、コンボボックスでは一覧から値を選択して下さい。診療科目や救急告示など"?"又は"?"しか入力しない項目では、マウスでクリックすることで"?"と"?"が交互に切り替わります。

[登録]ボタン 処理区分が新規または修正の場合、[登録]ボタン、削除の場合は、[削除]ボタンになり、照会の場合は表示されません。入力した動態調査票の内容を確認し、OKであればこのボタンをクリックします。

[前へ]ボタン クリックすると処理区分が修正、削除、照会の場合に表示されます。

[次へ]ボタン クリックすると、入力した順に次の動態調査票のデータが表示されます。

[前へ]ボタンをクリックすると、入力した逆順に表示されます。

通常、同じ処分・変更のデータを2件以上入力していると最初に入力したデータが表示されます。2件目以降のデータを修正、削除、照会を

する場合は[次へ]ボタンをクリックして対象のデータを探索します。

[前へ] [次へ] ボタンによってレコードを移動した時に内容を修正していた

場合は、修正の内容が保存されてから前または次のデータが表示されま

す。

[キャンセル]ボタン 入力した内容を取り消し、処理選択画面(前ページの

画面)へ戻ります。

※入力する各項目の入力のチェック内容は、付録①を参照。

● 医療施設動態調査票の入力

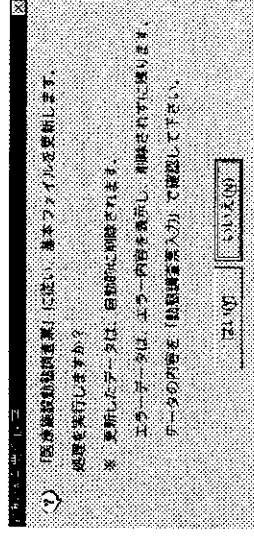
【動態調査票の保存】

入力された動態調査票の内容を医療施設基本ファイルへ反映させます。反映された動態調査票データは一時保存テーブルから保存後の動態調査票テーブルへ移動し、動態調査票入力画面から修正や参照が出来なくなります。保存処理を実行する前に動態調査票の内容に入力ミスなどないかよく確認して下さい。

(1) 医療施設情報メニューから「1. 動態調査票登録」の中の「動態調査票の保存」ボタンをクリックすると、下の画面が表示されます。

(2) [はい] ボタンをクリックすると、現在入力されている全ての動態調査票データを医療施設基本ファイル(病院、一般診療所、歯科診療所、歯科診療所)へ反映します。その他の場合は「新規開設」の場合は医療施設基本ファイルの内容を変更します。処分等に合わせ医療施設基本ファイルの内容を変更します。新規開設、休止、再開、廃止の場合は、それぞれの処分等年月日を病院報告台帳の共通表へ反映します。

正常に処理された動態調査票のデータは一時保存テーブルから保存後の動態調査票テーブルへ移動します。



(3) 保存の処理が終了すると、処理した件数の確認のメッセージが表示されます。入力ミスなどによりエラーになった場合、エラーの件数も表示されます。エラーの内容は動態調査票入力で[保存の再表示]ボタンをクリックすると表示されます。それを参照してエラーになった部分を修正し、もう一度[動態調査票の保存]を実行します。

